

V その他

(1) 経営モデル

企業的経営体や経営農家、兼業農家の収益が上がる10のモデルを示し、経営規模の拡大や園芸の導入、農家レストランなど新たなことへの挑戦を応援します。これにより、農家所得500万円（労働時間2,000時間/人）、熟練者や女性の生きがいづくりを目指します。

企業的経営体のモデル

- 1 メガファームモデル（100ha規模）：収益4,360万円（専従者所得600万円/人）
- 2 農業法人モデル（40ha規模）：収益1,490万円（専従者所得500万円/人）
- 3 施設園芸モデル（50a規模）：収益 870万円（専従者所得650万円/人）

経営農家のモデル

- 4 家族型経営モデル（20ha規模）：所得1,320万円（家族4人）
- 5 露地園芸モデル（園芸2～6ha）：所得 500万円
- 6 施設園芸＋露地園芸モデル：所得 500万円
- 7 畜産経営モデル：所得 500万円

兼業農家のモデル

- 8 中山間地域での集落営農モデル：地域に還元 460万円（構成員15人）
- 9 農家レストランモデル：地域に還元 660万円（構成員 5人）
- 10 農産加工販売モデル：地域に還元1,400万円（構成員10人）

1 メガファームモデル（100ha規模）

【経営のポイント】

- 組織の合併や広域化を進め、経営規模を拡大
- ICTや新技術を活用してコスト削減と収量アップ
- 若手専従者を雇用・育成し、経営継承・発展

品目	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
水稻					▲	~	▲		■			
大麦						■				○	○	
大豆							○	○			■	
ネギ				○	○	~	▲					■

【凡例】 ○：播種 ▲：定植 ■：収穫

【モデルの姿】

○経営形態

集落営農法人
(専従者7名)

◇収入合計 171,500千円

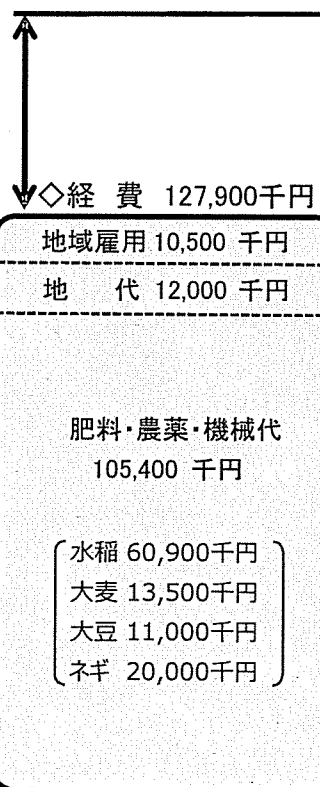
〔販売額 133,800千円〕
〔交付金 37,700千円〕

◇収益 43,600千円

〔専従者 7名〕
〔6,000千円/名〕
〔利益 1,600千円〕

○経営規模

経営面積 100ha
〔水稻 70ha〕
〔大麦 30ha〕
〔大豆 25ha〕
〔ネギ 5ha〕
作付のべ 130ha



○設備投資

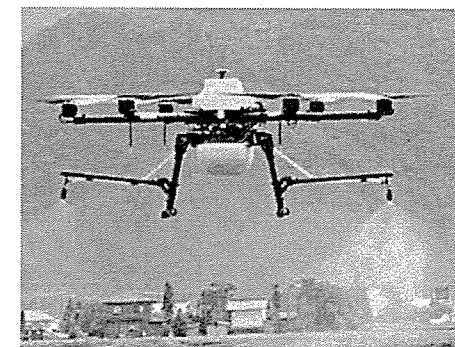
トラクター(90ps) 2台
田植機(8条) 2台
コンバイン(6条) 2台
格納庫(240m²) 1棟
費用合計 80,000千円

○労働力

労働時間 23,700時間
〔専従者 11,200時間〕
〔地域雇用 12,500時間〕



自動走行トラクタ



ドローンによる農薬散布

2 農業法人モデル（規模40ha以上、売上5千万以上）

【経営のポイント】

- 2年3作体系（水稻+大麦+大豆・ソバ）と規模拡大
- 地域雇用を活用した園芸導入による経営の安定
- 専従化による地域保全型経営から営利企業経営への転換

品目	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
水稻					▲	~	▲		■			
大麦						■				○	○	
大豆							○	○			■	
ネギ				○~○	▲	~	▲					■

【凡例】○：播種 ▲：定植 ■：収穫

【モデルの姿】

○経営形態

集落営農法人
（専従者3名、地域雇用5名）

○経営規模

経営面積 40ha
 〔 水稻 28ha 〕
 〔 大麦 12ha 〕
 〔 大豆 10ha 〕
 〔 ネギ 2ha 〕
 作付のべ 52ha

○設備投資

トラクター(60ps) 2台
 田植機(8条) 2台
 コンバイン(6条) 2台
 格納庫(120m²) 1棟
 費用合計 59,000千円

○労働力

労働時間 11,200時間
 〔 専従者 6,400時間 〕
 〔 地域雇用 4,800時間 〕

◇収入合計 66,100千円

〔 販売額 51,800千円 〕
 〔 交付金 14,300千円 〕

◇収益 14,900千円

〔 専従者 3名 〕
 〔 5,000千円/名 〕



水田を活用した露地園芸(ネギ)



地域雇用を活かした園芸導入

3 施設園芸モデル（50a規模の大規模施設園芸）

【経営のポイント】

- 環境制御装置を備えた施設で高収量・周年出荷を実現
- ハウスのリース方式で少ない初期投資で経営を開始
- 周年雇用で技術の高い雇用の確保と流出防止

品目	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
ミディ												
トマト								▲				

【凡例】 ▲：定植 ■：収穫

【モデルの姿】

○経営形態

認定農業者、農業法人
（専従者1名、パート13名）

○経営規模

経営面積 50a（施設）
〔ミディトマト 50a〕

○設備投資

鉄骨ハウス 50a
環境制御装置 一式
養液栽培装置 一式
費用合計 200,000千円

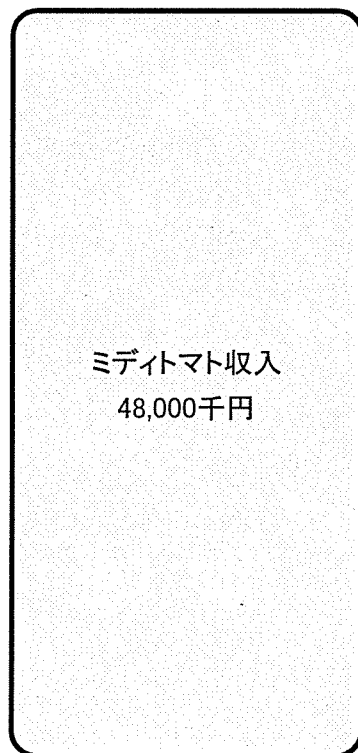
○労働力

労働時間 13,500時間
〔専従者 2,000時間〕
〔パート 11,500時間〕

◇収入合計 48,000千円
〔販売額 48,000千円〕

◇収益 8,700千円
〔専従者 1名
6,500千円/名
利益 2,200千円〕

◇経費 39,300千円



環境制御装置を備えた大規模園芸ハウス



ICTを活用したトマト栽培

4 家族型経営モデル (20ha規模)

【経営のポイント】

- ・園芸導入による経営の複合化
- ・地域の小規模な農家の作業請負による所得確保
- ・直売所での農産物や加工品の直売などによる経営の複合化

品目	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
水稻					▲	~	▲		■			
大麦						■				○	○	
大豆							○				■	
ネギ				○	○	▲	~	▲				■

【凡例】○：播種 ▲：定植 ■：収穫

【モデルの姿】

○経営形態

認定農業者
(家族4名)

○経営規模

経営面積 20ha
 (水稻 14ha)
 (大麦 6ha)
 (大豆 5ha)
 (ネギ 1ha)
 作付のべ 25ha
 作業受託 10ha

○設備投資

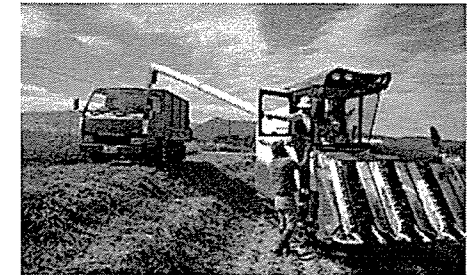
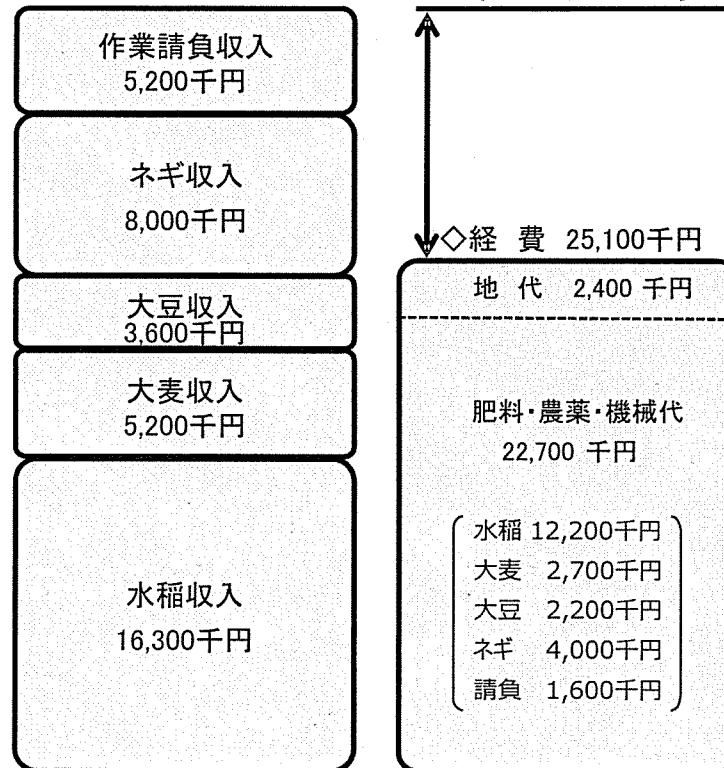
トラクター(90ps) 1台
 田植機(8条) 1台
 コンバイン(6条) 1台
 格納庫(100m²) 1棟
 費用合計 50,000千円

○労働力

労働時間 6,400時間
 [家族労働 6,400時間]

◇収入合計 38,300千円
 [販売額 31,100千円]
 [交付金 7,200千円]

◇所得 13,200千円
 [家族 4名]
 [本人 5,000千円]
 [妻 4,000千円]
 [父母 4,000千円]



家族連携による稲刈り作業



水田を活用した露地園芸(ネギ)

5 露地園芸モデル（規模2～6ha）

- 【経営のポイント】**
- 機械化一貫体系の導入で省力化
 - 作型を組み合わせる出荷期間の延長と労働分散
 - 排水対策を徹底し、高単収を確保

品目	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
秋冬 ネギ		○～○	—	▲	～	▲	—					

【凡例】 ○：播種 ▲：定植 ■：収穫

【モデルの姿】

○経営形態

認定農業者、農業法人
(経営者1名、雇用5名)

○経営規模

経営面積 200a
[ネギ 200a]

○設備投資

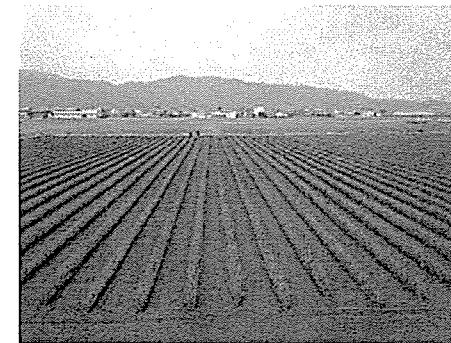
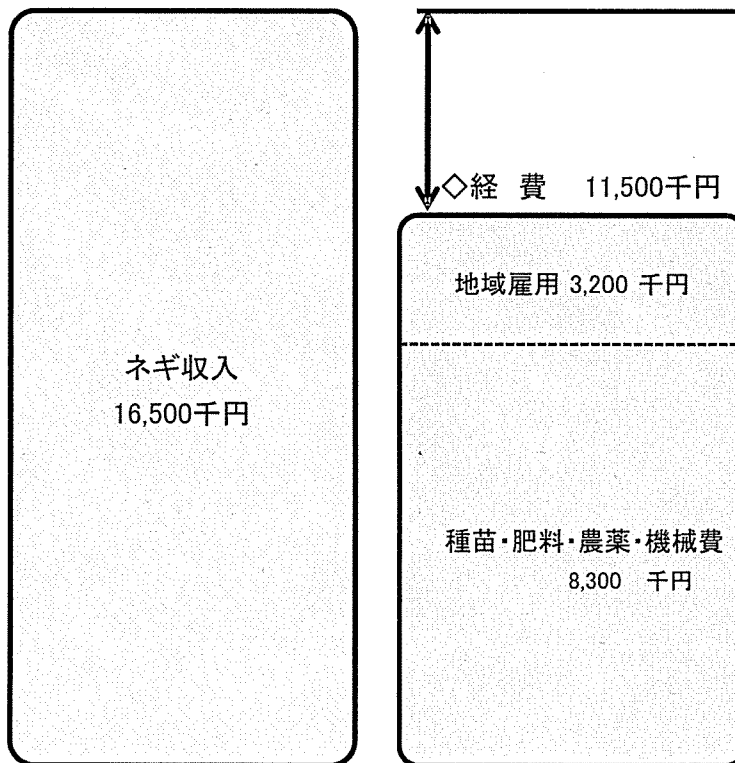
トラクター(25PS) 1台
排水対策機械 1式
(ハーフソイラ、溝掘機等)
防除機 1台
調整・選別機 1式
(根葉切り機、選別機、結束機)
費用合計 1,600千円

○労働力

労働時間 5,500時間
[専従者 1,900時間]
[雇用 3,600時間]

◇収入合計 16,500千円
[販売額 15,500千円]
[交付金 1,000千円]

◇所得 5,000千円
[専従者1名]
[5,000千円/名]



排水性の高い圃場でのネギ栽培



機械化による効率的な収穫作業

6 施設園芸+露地園芸モデル

- 【経営のポイント】**
- 施設野菜と露地野菜を組み合わせで労力を分散
 - 家族労働力と雇用を活用し、リースハウスによる周年生産
 - 露地野菜の機械化一貫体系による省力化

品目	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
春ミディトマト +コカブ		■		▲		■	■		○	■	○	
秋ミディトマト +コカブ			○		■		▲	■	■		○	■
ニンジン	■							○	○			■

【凡例】○：播種 ▲：定植 ■：収穫

【モデルの姿】

○経営形態

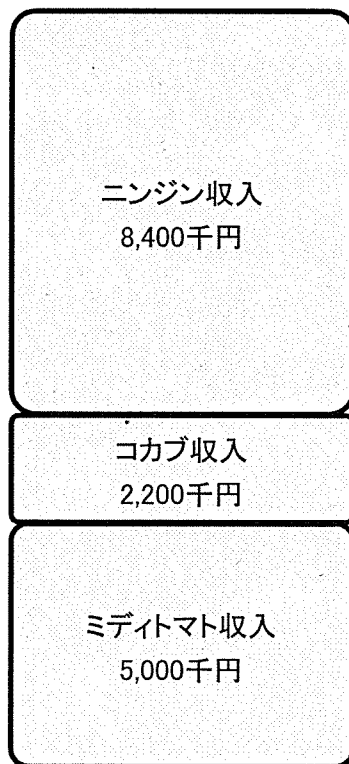
認定農業者、農業法人
(経営者1名、パート1名)

◇収入合計 15,600千円
販売額 15,600千円
交付金 - 千円

◇所得 5,000千円
〔専従者 1名〕
5,000千円/名

○経営規模

経営面積 260 a
〔ミディトマト 20 a〕
〔コカブ 40 a〕
〔ニンジン 200 a〕
作付のべ 260 a



○設備投資

ハウス(14年リース) 20 a
トラクター(25PS) 1台
ニンジン播種機 1台
ニンジン収穫機 1台
施肥機、土壤消毒機等
費用合計 9,000千円

○労働力

労働時間 2,900時間
〔専従者 2,200時間〕
〔パート 700時間〕



施設園芸(ミディトマト)



露地園芸(ニンジン)

7 畜産経営モデル

【経営のポイント】

- 従業員の雇用により休みの取れる畜産経営
- 空き畜舎の再整備など既存経営資源を有効活用
- 小規模から大規模まで多様な経営を育成し、県産畜産物の生産を拡大

【モデルの姿】

◎酪農経営

○経営形態

乳牛（経産牛）40頭規模
（経営者1名、雇用2名）

○設備

牛舎（搾乳設備）
堆肥処理設備、飼料作物機械等

○労働力

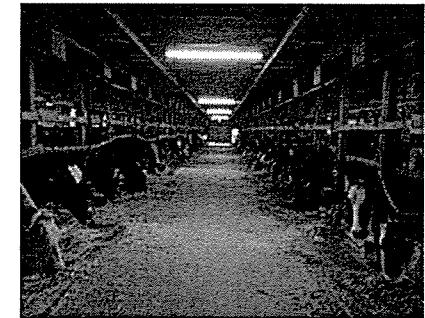
労働時間 5,200時間
〔経営者 2,000時間〕
〔雇用 3,200時間〕

◇収入合計 50,000千円
〔生乳販売 46,000千円〕
〔子牛販売等 4,000千円〕

酪農収入
50,000千円

◇所得 5,000千円
〔専従者1名
5,000千円/名〕

◇経費 45,000千円
雇用 5,000千円
飼料費 23,000千円
乳牛減価償却費等 17,000千円



乳牛（ホルスタイン種）の飼育状況

◎肉牛経営

○経営形態

和牛肥育100頭規模
（経営者1名、雇用2名）

○設備

牛舎
堆肥処理設備、糞わら回収用機械等

○労働力

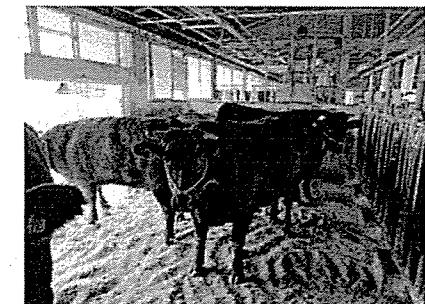
労働時間 5,000時間
〔経営者 2,000時間〕
〔雇用 3,000時間〕

◇収入合計 70,000千円
〔肉牛販売等 70,000千円〕

肉牛収入
70,000千円

◇所得 5,000千円
〔専従者1名
5,000千円/名〕

◇経費 65,000千円
雇用 5,000千円
素畜費 40,000千円
飼料費等 20,000千円



ブランド若狹牛の肥育状況

8 中山間地域での集落営農モデル

【経営のポイント】

- ・ 定年帰農者等が機械オペレーターとなって中山間集落の農地を保全
- ・ 中山間直接支払制度等を活用し、集落住民全員が草刈等に協力

【モデルの姿】

○経営形態
任意組織
(構成員15名)

○経営規模
経営面積 12ha

水稲	8ha
加工用米	4ha

○設備投資
 トラクター(30ps) 1台
 田植機(4条) 1台
 コンバイン(3条) 1台
 格納庫(70m²) 1棟
 費用合計 19,000千円

○労働力
労働時間 3,120時間

地域雇用	3,120時間
------	---------

 (機械作業+補助作業、
畦畔草刈等)

◇収入合計 15,000千円

販売額	13,000千円
交付金	2,000千円

◇地域に還元 4,600千円

地域雇用	3,400千円
地代	1,200千円



里山の田園風景



コンバインによる稲刈り作業

9 農家レストランモデル

【経営のポイント】

- 地域の女性や長い経験を持つ高齢者の生きがいの創出
- 地域の農家から調達した農産物の使用
- 地域の農家が生産する農産物、郷土料理、農村文化の情報発信

【モデルの姿】

○経営形態

地域の女性や高齢者による共同運営
(構成員5名)

◇収入合計 12,000千円

◇地域に還元 6,600千円
(地域雇用)

○経営規模

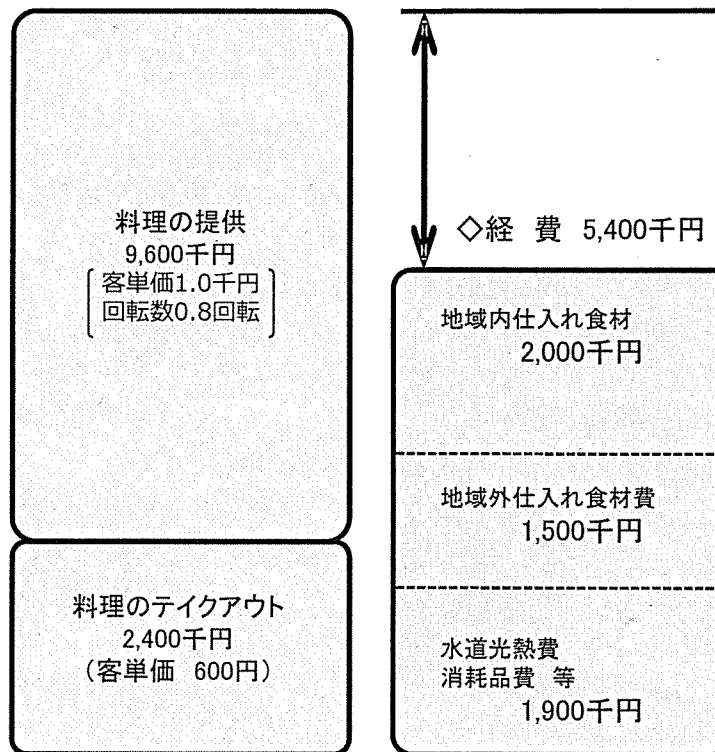
地域食材を使用した「食」の提供
営業時間 3時間
営業日数 300日
席数 40席

○設備投資 (既存施設活用)

厨房整備
客席整備
費用合計 4,500千円

○労働力

労働時間 7,500時間
専従者 1,500時間
パート 6,000時間



郷土料理のランチバイキング



報恩講御膳

10 農産加工販売モデル

【経営のポイント】

- 兼業農家の女性が地元農産物に付加価値をつけて販売
- 伝承料理など地域の食文化を継承し情報発信
- 法人化（企業組合）による労働環境の整備と販路の確保

【モデルの姿】

○経営形態

女性グループなどの共同運営
(構成員10名)

○経営規模

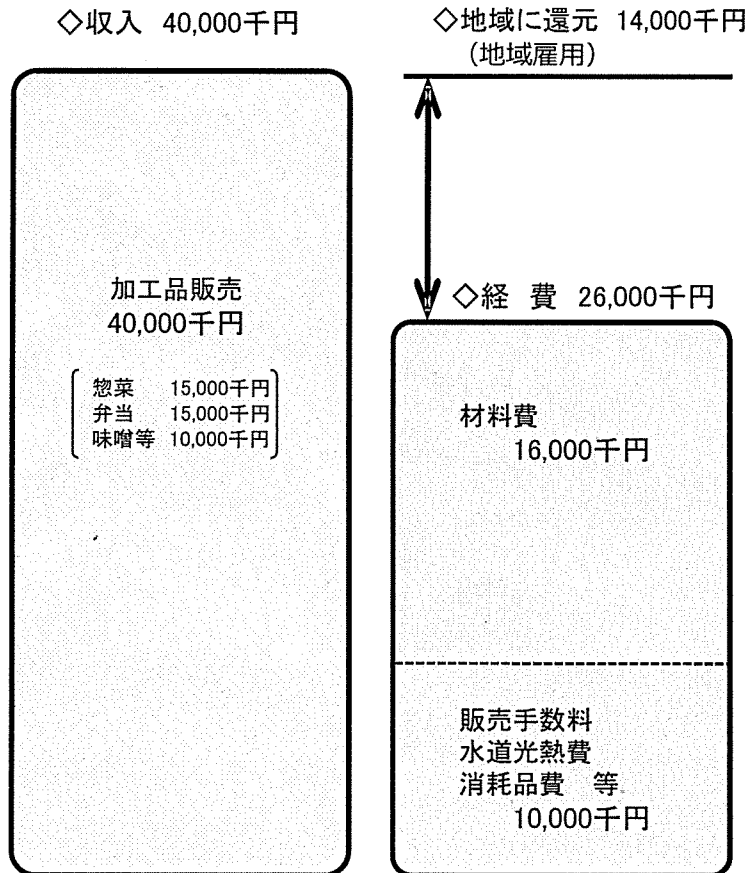
地域食材を使用した加工販売
加工品 惣菜、弁当、味噌・菓子等
販売先 直売所、量販店
活動日数 300日

○設備投資（建屋除く）

加工機器整備
7,000千円

○労働力

労働時間
17,000時間



農産物直売所での加工品販売



地元食材を使った仕出し弁当



アンテナショップでの加工品販売

V その他

(2) 計画の推進について

本計画の推進にあたっては、すべての農家が力を発揮し活躍すること、県民が消費者として本県の農業に貢献することが重要です。

このため、農家間の交流やネットワークづくりを進め、技術の向上や販路の拡大など、相互に高め合い、個々の農家の活躍をより大きな力にしていきます。

また、技術や経営の発展に熱心な若手農業者や地域で活躍する女性グループに光を当て、表彰制度やマスメディアを通じたPRなどにより、農業者の自信と誇りを育て、広く県民にふくいの農家を知ってもらい、地場産農産物を選ぶ人を増やし、力強い農業を実現していきます。

なお、本計画については、10のプロジェクトごとの施策や目標の達成状況を検証し、必要が生じた場合は計画の見直しや施策の拡充を図り、計画の実効性を確保します。

(3) 検討会委員

会長	進士 五十八	福井県立大学 学長
	伊藤 浩一	株式会社ef 代表
	犬養 裕美子	レストランジャーナリスト
	大和田 順子	一般社団法人口ハス・ビジネス・アライアンス 共同代表
	小川 喜久子	J A福井県女性組織協議会 会長
	小林 栄三	伊藤忠商事株式会社 特別理事
	堺井 英輝	福井県経済農業協同組合連合会 代表理事専務理事
	堂下 雅晴	殿下の里づくり組合 組合長
	中村 靖彦	農政ジャーナリスト
	野口 喜弘	株式会社京王百貨店食品部 マネージャー

(会長以下は五十音順、敬称略)

V その他

(4) 検討会の経過

第1回	平成30年	5月30日	計画の見直しの方向性について
第2回		8月 9日	新計画の施策の方向性について
第3回		11月 8日	新計画の中間とりまとめ
第4回	平成31年	1月21日	新計画の最終とりまとめ

(5) 農業者、関係団体等との意見交換

福井地区	平成30年7月3、10日	28人
坂井地区	7月18日	19人
奥越地区	7月10日	16人
丹南地区	7月13日	15人
二州地区	7月11日	11人
若狭地区	7月17、18日	20人
その他団体	7月9、17、25日	58人
	(合計)	167人